



若手にやりがい、達成感伝える

中部支店勤務は3年ぶりとなる。全社的な取り組みでもある。「働き方改革から働きがい改革へ」を意識した組織づくりを進める。

「民間工事では休日の仕事も多い
日本道路中部支店長

須藤 俊博氏
すとう としひろ



ことが課題だが、振替休日の取得など意識は改善されてきている」と話す。

官庁工事が約3割、民間工事が約7割と、民間のウエートが大きい支店の特徴を、民間の仕事の進め方や折衝を学ぶことができる場だと捉え、「支店の中で揉まれ、成長してほしい」と若手の育成に目を向ける。官庁工事も現状のバランスどおりの受注を目指すとともに、「技術者の配置が偏らないように、若手にも代理人のポストを担う機会を設ける」と先を見据える。仕事の魅力を、開通式を迎えて車両を通す場面や、自分が手掛けた道路を通る時に湧く愛着などと

考え、「この仕事で味わえるやりがいや達成感を若い人たちにも知ってもらいたい」と語る。働きやすい環境の整備では、「現場のトイレや事務所などの設備、環境面での改善が進んでいる」と手応えを口にする。

思い出深い仕事には現場代理人を務めた東京都の日暮里・舎人ライナーの開通に向けた駅舎近辺の整備を挙げる。タイトな工期を綿密な工程管理で克服し、「よく作業を完了させたところでも思つ」と振り返る。

1996年3月北海道大工学部土木工学科卒業後、同年4月日本道路入社。2021年中部支店工事部長、23年中国支店工事部長などを経て現職。趣味はゴルフと散策。青森県出身、53歳。

